

フルカラー  
42p

# でかムチお嬢様姉妹

どちらかの専属執事になるまで  
毎日追われ、搾り取られるボク♡





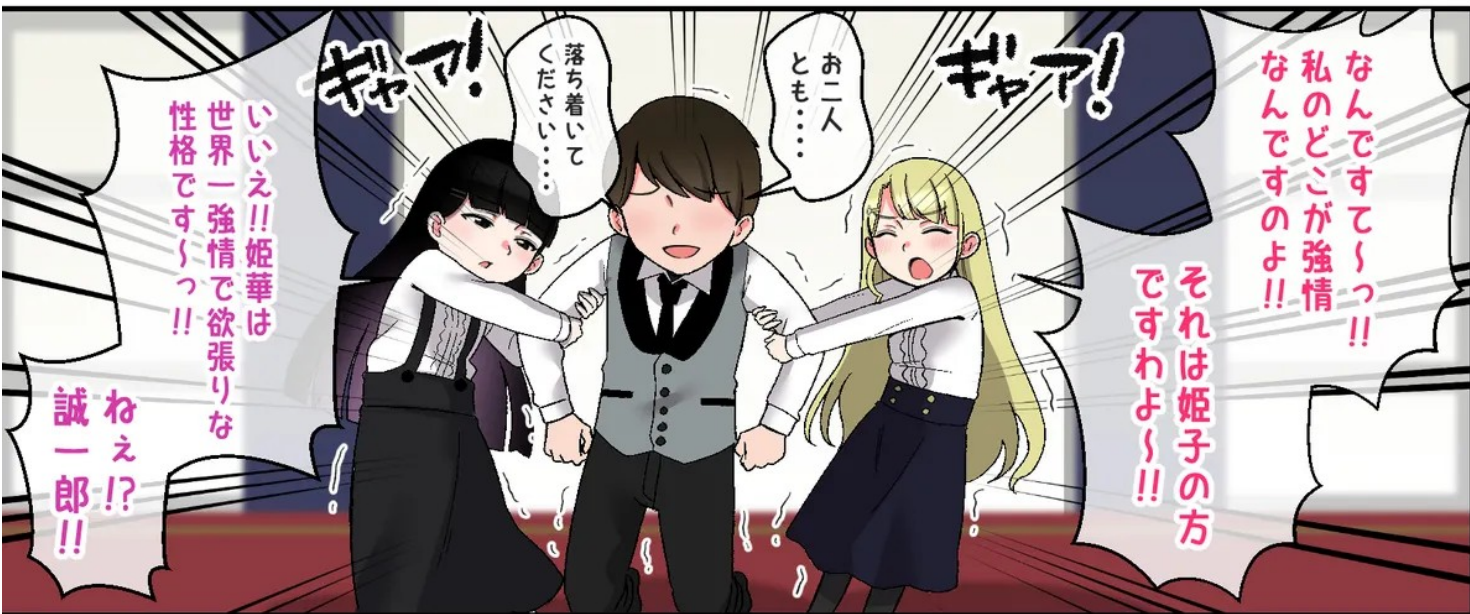
いいえ!!  
誠一郎は私の  
専属執事です!!

姫華は本当に  
強情でよくばり  
なんですから!!



ちよっと!! 姫子!!  
離しなさいっ!!

誠一郎は私の  
専属執事なんです  
のよ!!



なんですてっ!!  
私のどこが強情  
なんですのよ!!

それは姫子の方  
ですわよ!!

お二人  
とも...

落ち着いて  
ください...

いいえ!! 姫華は  
世界一強情で欲張りな  
性格ですっ!!

ねえ!?!  
誠一郎!!



僕は「誠一郎」  
お二人のお嬢様  
にお仕えする  
執事をしています

僕は「お二人」に  
仕えていますので  
...

どちらかだけを  
選ぶことは  
いたしませんよ

なんですって!?

お二人は  
こうして喧嘩の  
多い姉妹では  
ありませんが...

お二人との日常に  
幸せを感じる  
日々を過ごして  
います...

それから  
月日は流れて……

姫子!! いい加減に  
諦めたらどうなん  
ですの!?

誠一郎は私の  
専属執事になるん  
ですのよ?

はあ……  
姫華もしつこい  
わね……

誠二郎は私の  
専属執事になるって  
決まってるのよ?

決まってるって  
何を根拠に言ってる  
のかしら……??

まったく本当に  
あなたってば  
往生際が悪い子  
ですわ

その言葉  
そっくりそのまま  
返すわ姫華……

まったく……  
強欲さだけが  
大きくなって  
しまってる……

なんですって!?

ただその成長に  
僕は心を落ち着かせる  
暇ありません……

お二人は立派に  
成長されました

お二人とも……

落ち着いて……

『天上院財閥』

日本だけでなく  
世界でも有数な  
財閥のひとつ

この財閥には  
美しく魅力的な  
姉妹令嬢がいる

姉妹は双子だが  
容姿が対称的で  
有名だった

オーホッホッホッ

『天上院姫子』

『天上院姫華』

双子の姉で西洋人の母の  
血を色濃く受け継いだ容姿の  
持ち主

傲慢で強情。派手なことを好む  
典型的なわがままお嬢様な  
性格をしている

すんすん

姫華の双子の妹で  
姫華と違い美しい黒髪が  
特徴の容姿の持ち主

一見おしとやかそうに  
見えるがその実狡猾で  
有無を言わさぬ圧を持つ

そんな姉妹が  
幼い頃から仕えている  
執事「誠二郎」

2人を主として  
そして兄妹のように  
大切に思っており  
どちらにも平等に  
尽くす事を心掛けて  
いる……

色々と成長した  
2人とは対称的に  
容姿や体格にまったく  
変化が見られず……

年々激しさを増す  
2人の奪い合いに  
苦勞の日々が続くが

そんな彼に  
今最大の試験が  
訪れようとしていた



えっ!?

どちらか一方の  
専属執事になる事を  
今度こそ決めろ……?!

お……お言葉ですが  
姫華お嬢様……  
姫子お嬢様……  
何度も申し上げてます  
ように……

僕はお二人にこれまで  
平等にお仕えしてきた  
つもりです……

そしてそれは  
これからも変えるつもりは  
ございません……

誠一郎……  
あなたの気持ちは  
わかってるつもりですけど……

そうも言われてられなく  
なりましたのよ……?!

これはお父様が  
決められた事  
ですの……

だ……  
旦那様が……!?

そうよ……  
誠一郎……

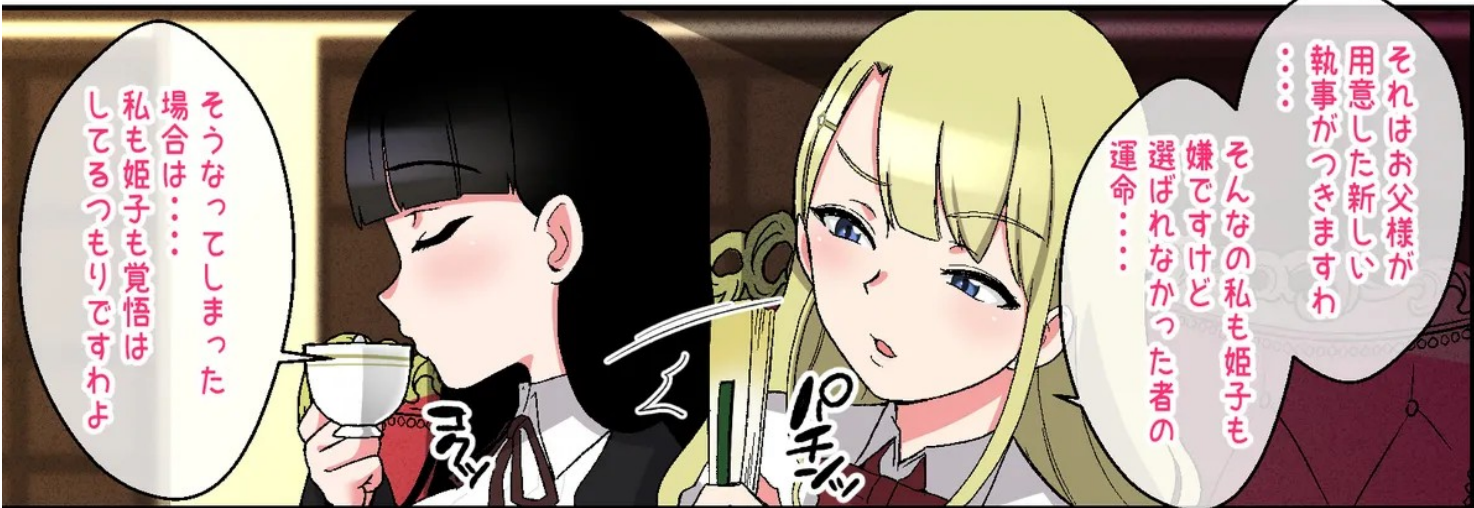
私たち姉妹も成人して  
これから本格的に財閥を  
支える立場になっていくわ

そうなるに  
執事にも課せられる  
業務はこれまで以上の  
ものになっていく……

そんな状態で  
姉妹同時に仕えるのは  
不可能……  
お父様は今回そう判断  
したのよ……

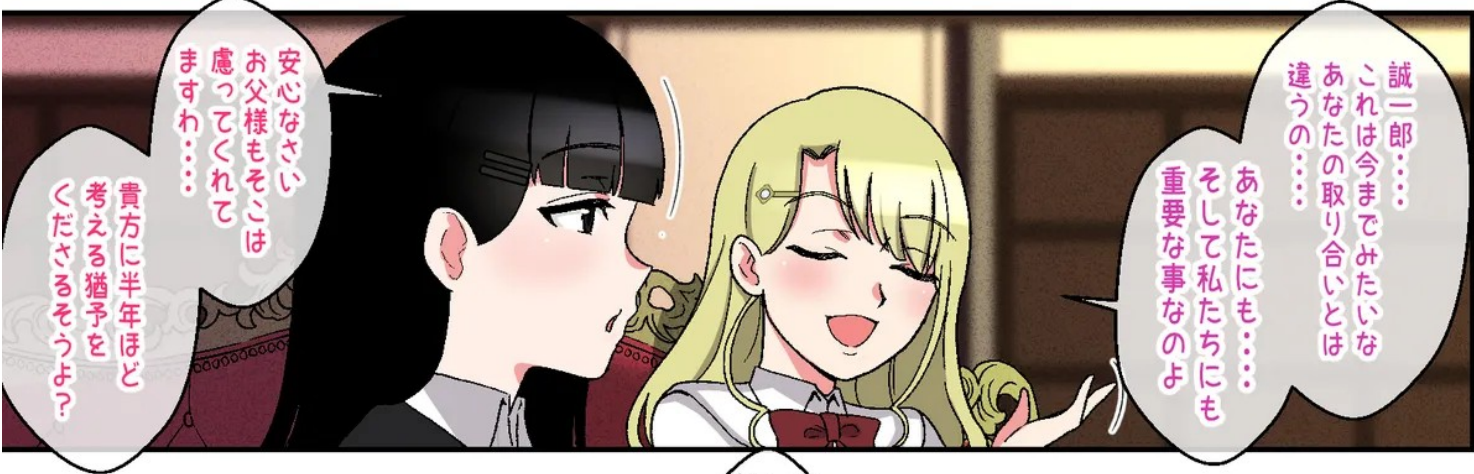


で……ですが……  
どちらかお一人に仕える  
事を決めた場合……  
残されたもうお一方の  
お世話は一体どうなる  
のですか……!?



そうなってしまった  
場合は……  
私も姫子も覚悟は  
してるつもりですわよ

それはお父様が  
用意した新しい  
執事がつきますわ  
……  
そんなの私も姫子も  
嫌ですけど  
選ばれなかった者の  
運命……



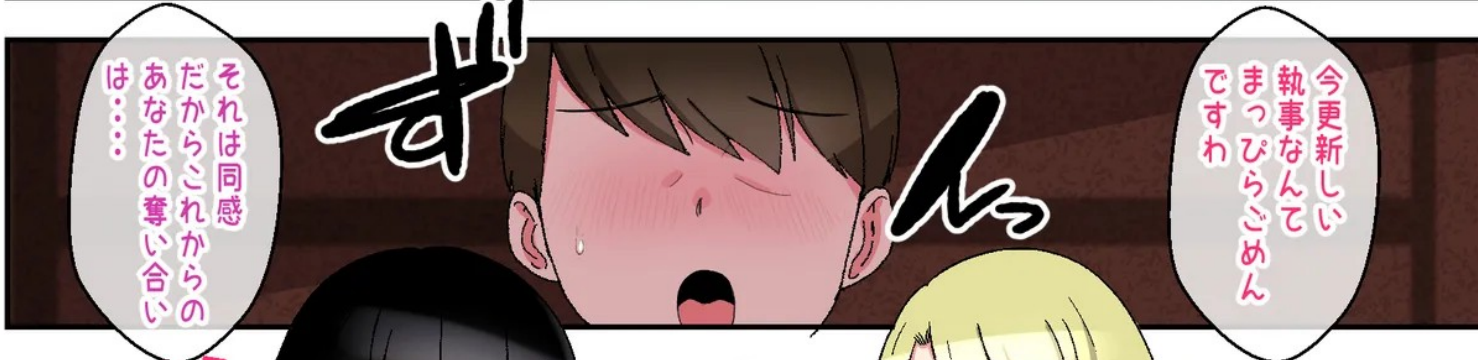
安心なさい  
お父様もそこは  
慮ってくれて  
ますわ……  
貴方に半年ほど  
考える猶予を  
くださるそうよ?

誠一郎……  
これは今までみたいな  
あなたの取り合いとは  
違うの……  
あなたにも……  
そして私たちにも  
重要な事なのよ



ですが……  
僕は……

っ





あなたにも  
覚悟して  
もらわないと

私たちが  
こんなに覚悟を  
決めてるんです  
もの……

これまでみたい  
のらりくらりと  
躲させないわよ?

ツカ

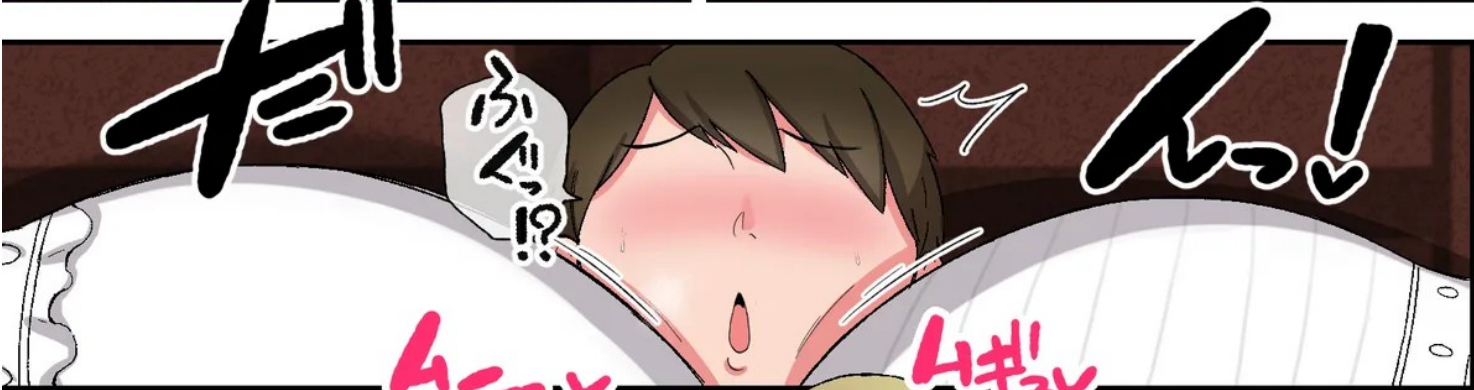
ツカ



お……お二人とも!!  
少し冷静に……!!

ちよ、ちよっと  
何で距離を詰めて  
きて……

ツカ



ふ……!?

ム……

ム……



誠成おね  
——ええ  
良郎??  
??

ぎゅぎゅ



ふあい……

ふあ……

こうして突如  
始まった  
誠一郎の本気の  
奪い合い……

誠一郎は  
これから2人に  
翻弄されていく  
こととなる……

2人のお嬢様の  
争奪戦宣言の  
翌日……

誠一郎は姫華から  
呼び出しを受けていた

さあ誠一郎!!  
あなたに付き合っ  
てもらいますわよ!!

美を保つには  
やはり運動をするの  
にかぎりますわ!!

は……  
はあ……

……  
……

私に倣いなさい!!  
誠一郎!!

それじゃあ  
まずは……

準備運動  
しますわよ!!

昨日は「本気を出す」と  
仰ってたけど……  
本気って何を……?

姫華お嬢様……  
今のところいつも通り  
だな……

ん……っ♡  
準備運動で  
よく体を  
慣らしておかない  
と……♡

ん……っ♡

本格的な運動に……♡  
体がついていきませ  
んわ……♡

たっ♡ たっ♡  
たっ♡ たっ♡  
たっ♡ たっ♡

ん……っ♡

たっ♡

たっ♡

いっ♡ち♡にっ♡  
いっ♡ち♡にっ♡  
いっ♡ち♡にっ♡

お嬢様が動いたたびに  
胸が大きく揺れて……!!

ふう……  
腰を深く  
落して……っ♡

は……  
は……

うう……っ姫華お嬢様!!  
目のやり場に困りますっ!!

誠一郎!!  
ちゃんとして  
きてますの!?

……っ

ん……っ♡



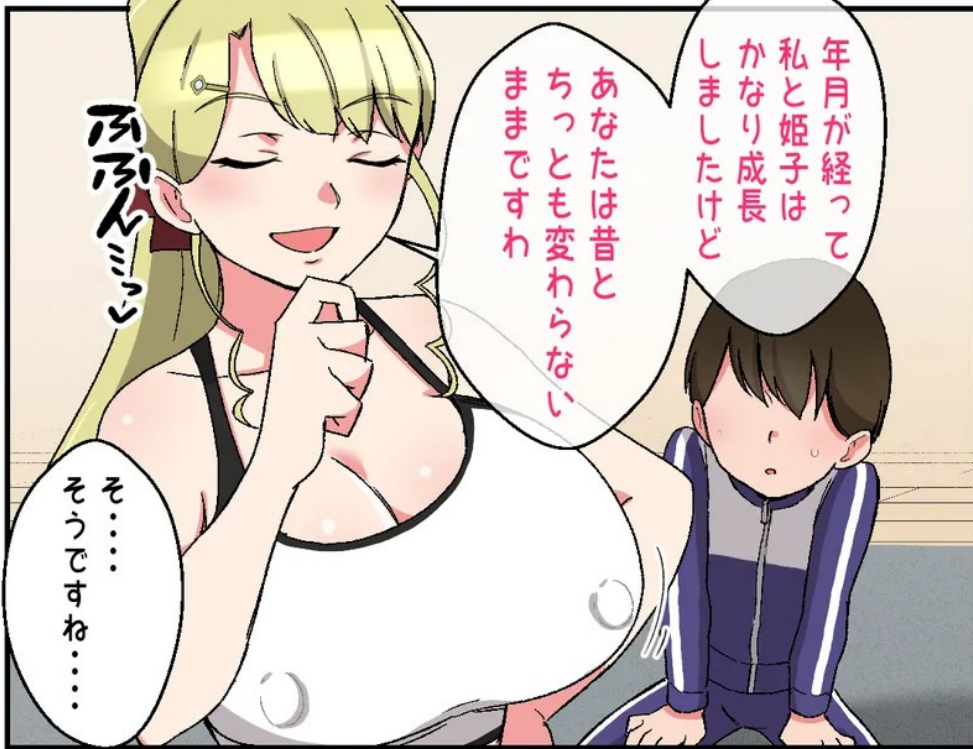
誠一郎!!  
あなた集中  
してますの!?

えっ!!  
も...申し訳  
ありません...!!

息も上がって  
ますし...:  
顔もなんだか  
赤いですわよ?

これしきの事で  
疲れるような  
あなただった  
かしら?

い...いえ!!  
これは...



年月が経って  
私と姫子は  
かなり成長  
しましたけど  
あなたは昔と  
ちっとも変わら  
ない  
ままですわ

たゆん

そ...  
そうですわ...



誠一郎...

あなたは昔の  
ままですわね



なんですの?  
その反応は...

私のサポートに  
不満がありますの!?

い、いえ!!  
そんなことは!!  
お...お願いします!!



柔軟体操の時  
あなたが背中を  
押してくれたのを  
今でも思い出せますわ

そうですわ!!  
今日ほわたくしが  
あなたの背中を  
押してさしあげますわ!!

えっ!?



は……  
はい……

こ……これが  
今の精一杯です



誠一郎……  
あなた……

まじめに  
やっていますの？



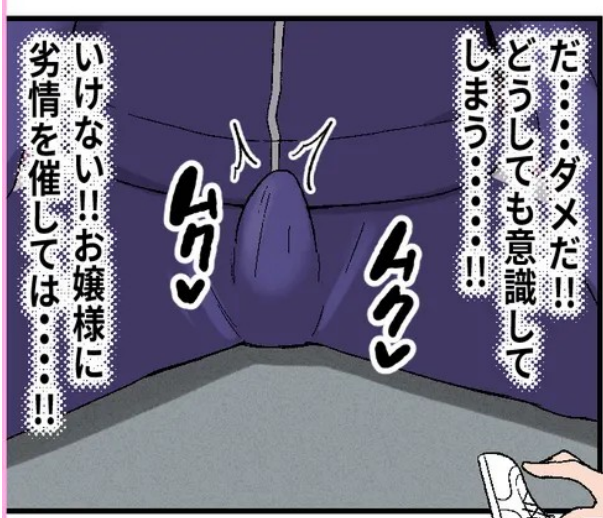
ひ……姫華お嬢様の  
胸が……!!



あなた……  
こんなに体  
硬かったかしら？

ほらもっと  
押しあげます  
から……  
いっちな♡に♡  
いっちな♡に♡

……!!



だ……ダメだ!!  
どうしても意識して  
しまう……!!

いけない!!お嬢様に  
劣情を催しては……!!



……♡  
ムッ



姫華お嬢様  
一体何を……!?

いけません!!  
それ以上は……!!

主に欲情するような  
わるう〜いおちんぽ  
には……

私がしっかり  
罰を与えてあげませんと♥

お……お嬢様!?  
そんな下品なお言葉は  
一体どこで……!?

うふ♥  
これは褌ですわよ♥  
誠一郎……♥

ああっ♥

そんなこと  
どうでも良いじゃ  
ありませんの♥

はい  
挿乳しましたわ♥

あっ♥  
私の胸の中で  
びくって跳ね  
ましたわ♥

こうやって動かすと……  
あんっ♥もっと大きく  
なっぺいさますわね♥

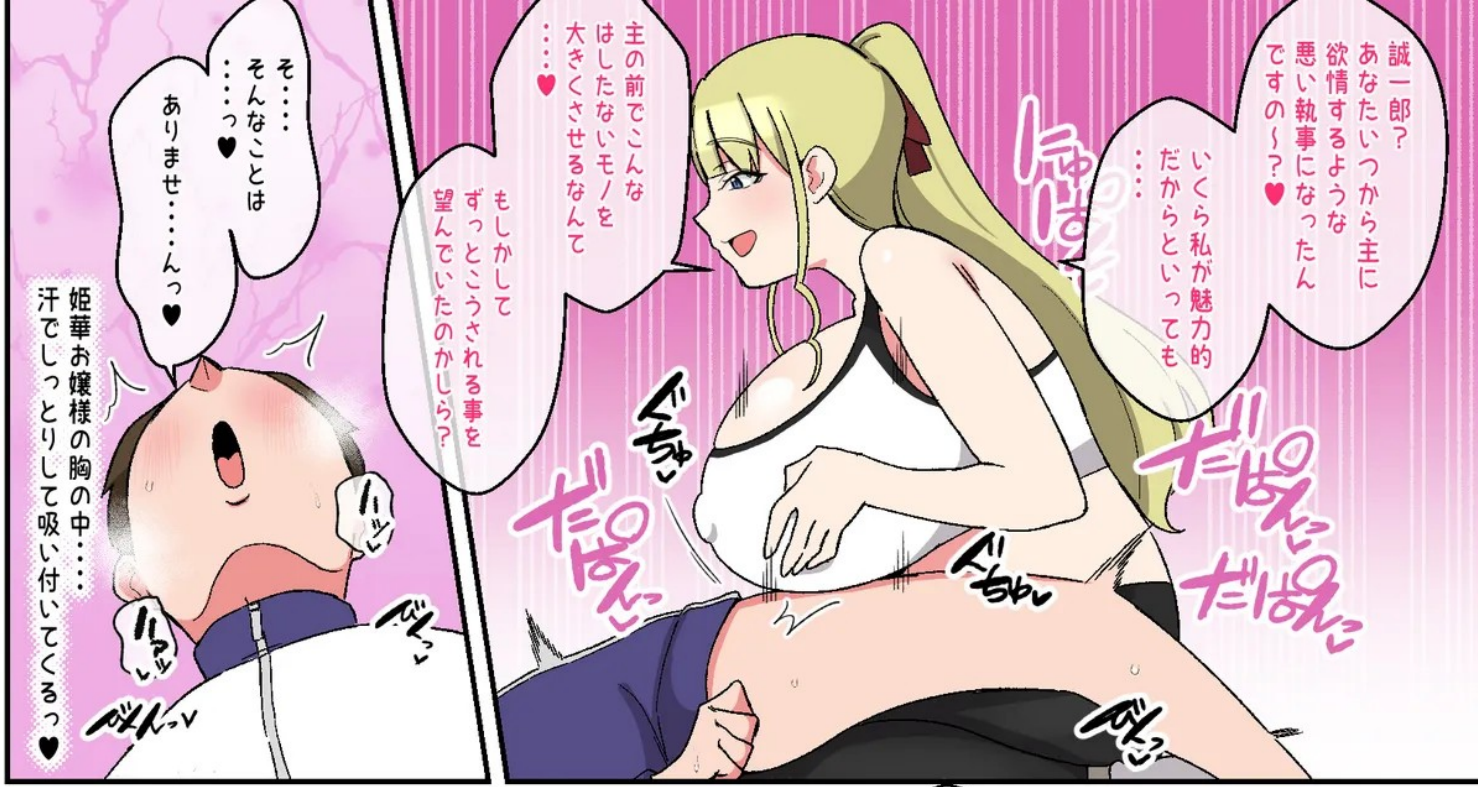
あっ♥

ほら見なさい  
誠一郎……♥

私の胸に  
あなたのおちんぽ  
が……♥

ああっ♥

姫華お嬢様  
一体どこでこんな事を  
覚えたんですか!?



誠一郎?  
あなたいつから主に  
欲情するような  
悪い執事になったん  
ですの〜?♡

いくら私が魅力的  
だからといても  
……

主の前でこんな  
はしたないモノを  
大きくさせるなんて  
……♡

もしかして  
ずっとこうされる事を  
望んでいたのかしら?

そ……  
そんなことは  
……っ♡

ありませ……んっ♡

姫華お嬢様の胸の中……  
汗でしっとりして吸い付いてくるっ♡



でも誠一郎?  
もし私の専属執事に  
なると決めたら……

私こうした  
刺激的な日々が  
毎日送れますのよ?

あなたが望むのなら  
今みたいに私の胸を  
あなたのおちんぽを  
可愛がってさしあげても  
よろしくてよ?

あら?  
また膨らみ  
ましたわね♡

私の体を好きにできる  
男は世界中を探しても  
いませんわ♡  
感謝なさい? 誠一郎♡

もう射精ちゃうんですの?  
イキますの? イク?  
イクイクイク……♡

お嬢様……っ♡  
ダメです……っ♡



どくどくと  
射精てますわね  
……♡

あんっ♡  
すっごいですわ〜♡

あ  
ん  
っ  
す  
ご  
い  
で  
す  
わ  
〜  
♡

胸の中……  
あついで  
満たされていき  
ますわ……♡

ひ……姫華お嬢様の胸を……  
汚してしまった……♡



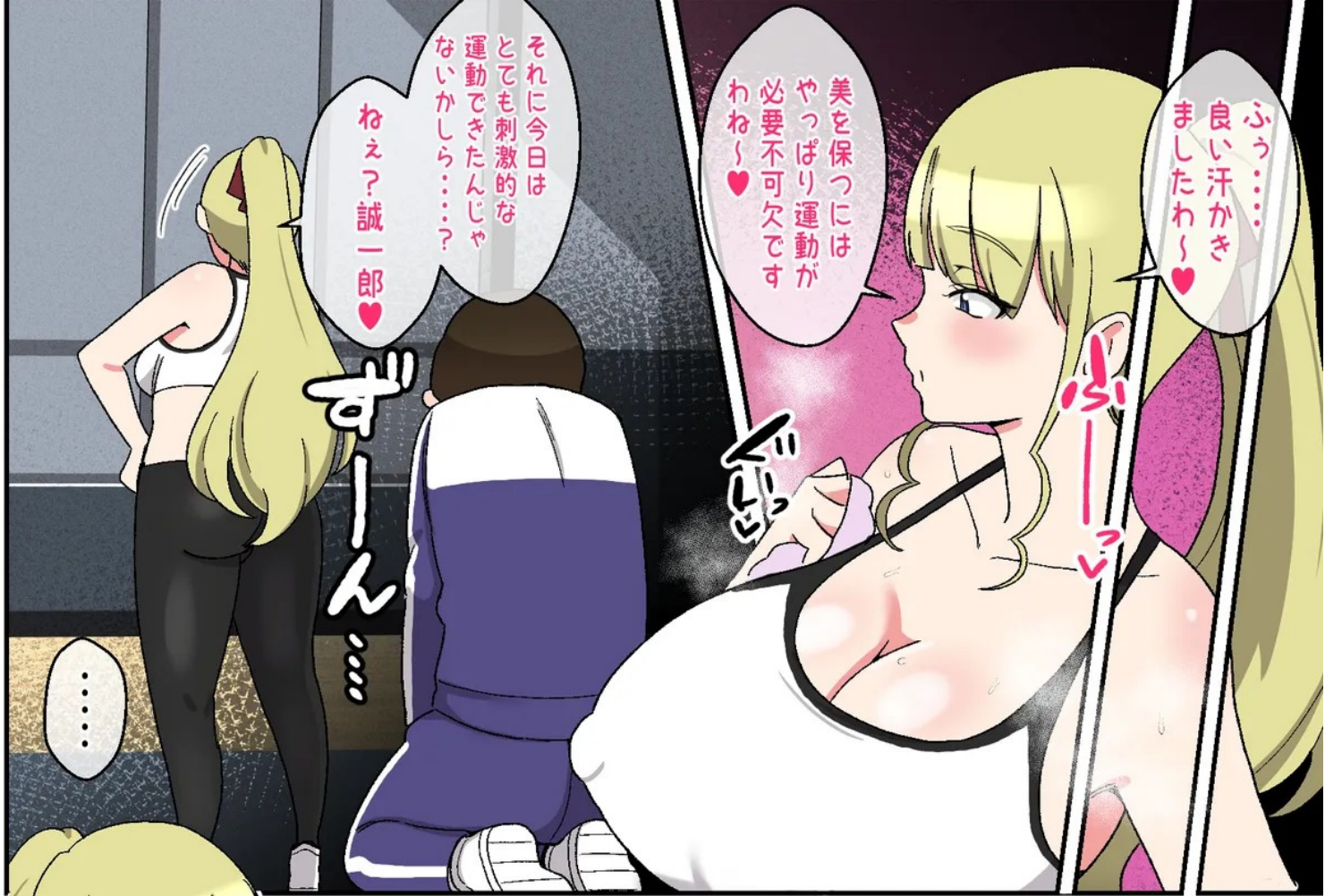
なあにこれ♡  
見なさい誠一郎♡  
私の胸……ドロドロ  
ですわあ♡

治まった  
みたいですからね♡  
……♡

そんなに私の  
胸が気持ちよかったん  
ですの……？

うう……♡

どっだけ  
射精したのかしら♡



ふう……  
良い汗かき  
ましたわ♡

美を保つには  
やっぱり運動が  
必要不可欠です  
わね♡

それに今日は  
とても刺激的な  
運動でたんじゃ  
ないかしら……?

ねえ？誠一郎♡

ずん……



もう決めても  
良いんじゃない  
なくて？

私の専属執事に  
なれば今日のような  
刺激的な日々が送れ  
ますわよ？



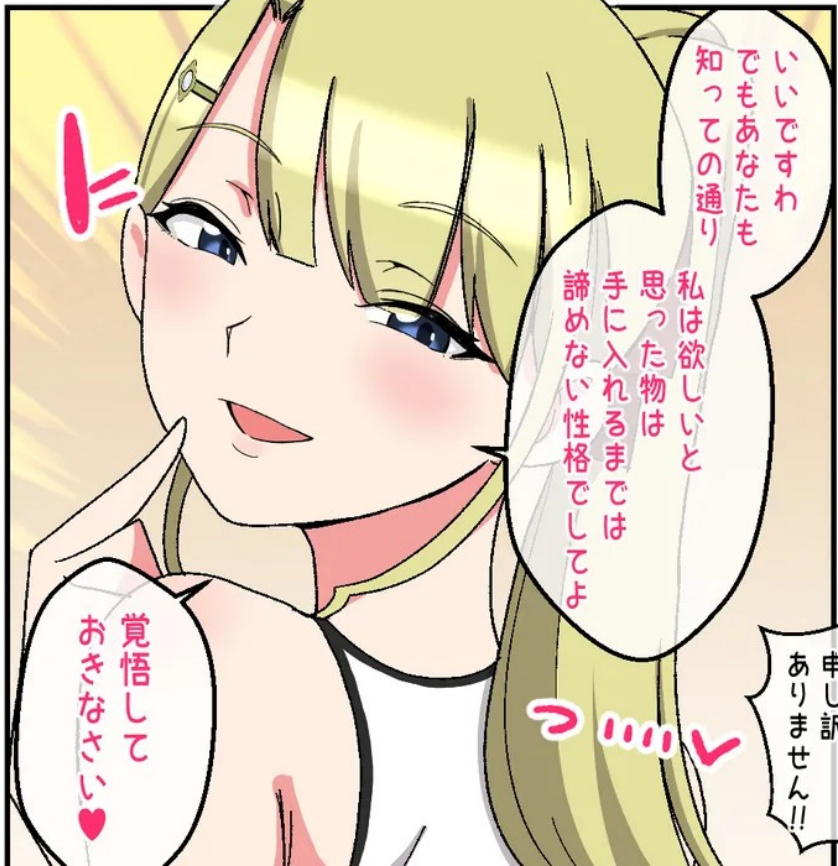
は、はい!!

聞いてますの？  
誠一郎!



お……  
し……執事として  
失格だ……

じよ……状況が  
状況だったとはいえ  
お嬢様の胸を汚して  
しまうなんて……



いいですわ  
でもあなたも  
知ってる通り

私は欲しいと  
思った物は  
手に入れるまでは  
諦めない性格でしょ

覚悟して  
おきなさい♡



ふ……



生意気  
ですわね

も……  
申し訳  
ありません!!



……  
も……申し訳ありません  
姫華お嬢様……  
たしかに先ほどは  
刺激的すぎるほどの  
経験でしたが  
今のだけで  
決断を下すのは  
まだできません……

姫華の強烈な  
やり方に心乱された  
誠一郎……

しかし  
姫子もまた誠一郎を  
手にするために  
動き出していた

あ……あの  
姫子お嬢様……？

こ……これは  
一体何を……？

見ればわかる  
でしょ？

あなたに私の  
マッサージを  
お願いしてるの  
だけど？

いや……ですが  
その格好は……

今日は全身に  
オイルを塗って  
貰うつもりだから……

こうして水着を  
着てるだけじゃない

何を今更  
緊張してるの  
かしら……？

ですが……  
なぜ僕も  
水着に……？

そっちの方が  
色々都合が  
いいのよ

あなた昔から  
私にマッサージ  
してくれてたじゃない

子供の頃から  
私の隅々まで  
触れているでしょ？

へ……変な  
言い方しないで  
ください!!

その時はお背中  
だけでしたよ!!

それにお召し物も  
されてたじゃない  
ですか!!



アハハ  
アハハ  
そう……♡  
よく塗り込み  
なさい……♡

んっ……♡



姫子お嬢様  
流石にこれ以上  
は……

何？まだ  
始めたばかり  
なんだけど？

は……はい

命令と言われても



アハハ  
アハハ  
続けなさい  
これは命令よ？

姫子お嬢様の体を  
こんな風に触って  
いくのは……

ダメだ!! 誠一郎!!  
余計な事を考えるな!!



はい……

は……



……  
誠一郎?  
はい!!

命令よ  
やりなさい  
誠一郎

ギ  
す……  
落ち着け誠一郎!!  
これはマッサージ!!  
マッサージなんだ!!  
し……  
失礼します……

同じ箇所ばかり  
してないで  
次は胸に塗りなさい  
むっ!? 姫子お嬢様!?  
いくらなんでもソレは!!





できるわけ  
ないじゃないですか!!

そ……  
そんな事……

姫子お嬢様も  
こんな過激な  
行いを……!!

な……なんて事だ  
姫華お嬢様の時  
みたいに……



まったく……  
仕事はできるのに  
こういう時は察しが  
悪いのね……

こちらが無防備に  
なっているという  
のに……

襲い掛かってこない  
なんて……  
もっと男を見せたら  
どうなの? 誠一郎?



姫子お嬢様の  
股の間に入って……

あっ♡あっ♡  
入っていく……♡



はあ……じゃあ  
私がリードして  
あげるしか  
ないみたいね

あんっ♡  
何だかんだ言って  
あなたもココ随分  
硬くしてるじゃない♡

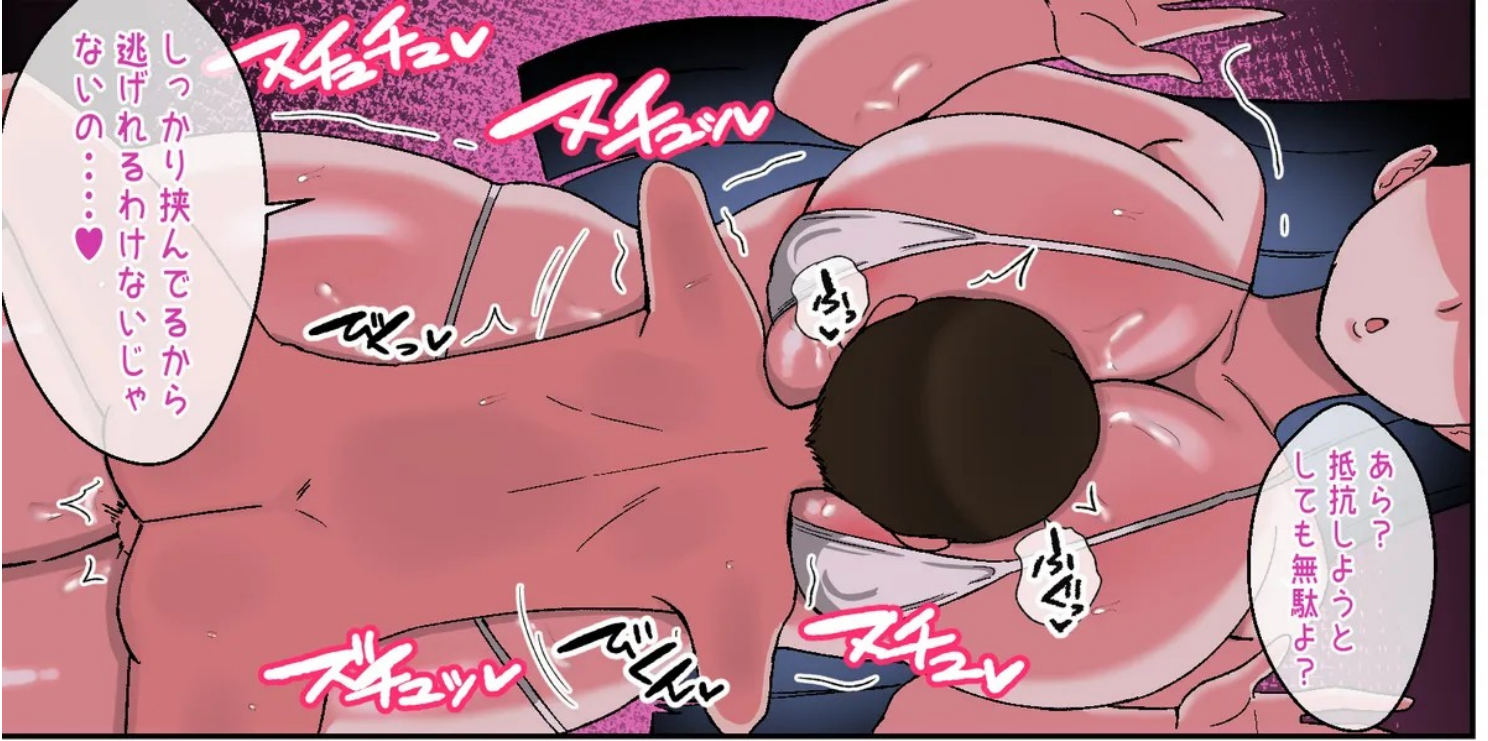


それじゃあ  
私の太ももで

いっぱい  
いじめてあげる♡



んっ♡  
……私の太ももの間に  
入った……♡  
熱いわ誠一郎♡  
あなたの意外と  
大きいのね♡



しっかり挟んでるから  
逃げれるわけないじゃ  
ないの……♡

あら？  
抵抗しようと  
しても無駄よ？



む……  
胸に押し  
つぶされて  
息が……!!

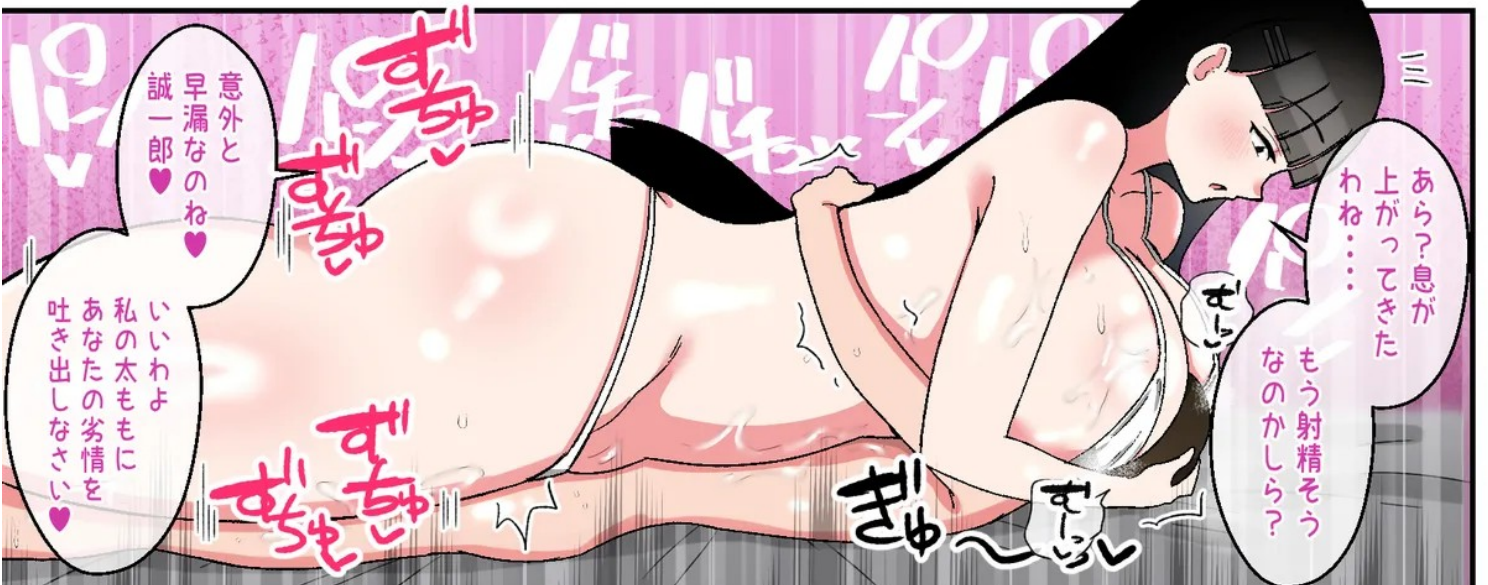


んっ♡  
オイルで滑りやすくな  
ってるから……

太ももの間で  
あなたのおちんちんが  
出たり入ったりしてるわ

動かす度に  
びくびく震えて  
……

どんだん  
熱くなってきて  
面白いわね♡



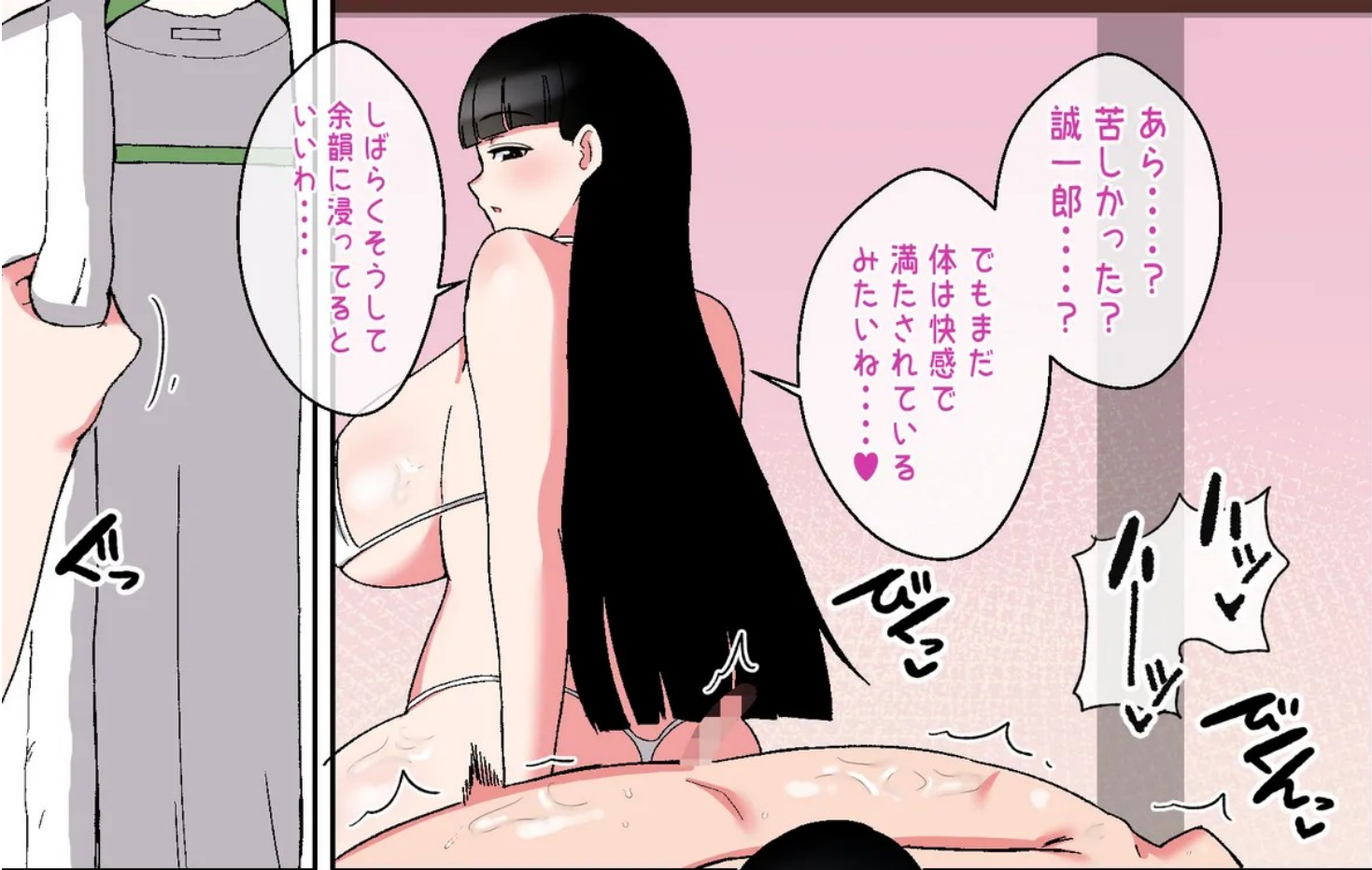
あら？息が  
上がってきた  
わね……

もう射精そう  
なのかしら？

意外と  
早漏なのね♡  
誠一郎♡

いいわよ  
私の太ももに  
あなたの劣情を  
吐き出しなさい♡





しばらくそうして  
余韻に浸っていると  
いいわ……

でもまだ  
体は快感で  
満たされている  
みたいね……♡

あら……？  
苦しかった？  
誠一郎……？

ハッ  
ハッ  
ハッ  
ハッ  
ハッ



ま  
考えておくことね

今日以上の  
快感を好きなら  
与えてあげても  
いいわ……♡

誠一郎  
もし姫華じゃなく  
私をえらんたら  
……

アサ……



はっ  
はっ

はっ  
はっ

ちゅわ

ハッ



随分と大胆なやり方をするじゃない……  
姫子……

あんな手で誠一郎の気を引くなんて……

かなり必死みたいですね♡

オホホホ……

……  
あなたに言われたくはないわね……

あらあら……

ええそうよ私も本気だもの……

だから……余裕ぶるのは早いんじゃない？

っ……!!  
言ってくれますわね……!!

もちろん……手を緩めるつもりはありませんわ……!!

誠一郎は必ず私のモノにしますわ!!

私色に染め上げてさしあげますの!!

そんな簡単にいくかしら……?

女

2人の誠一郎の奪い合いは更に過激さを増してらる

まじっ

二人のお嬢様による  
誠一郎への積極的な  
アプローチは昼夜場所  
を問わず行われた

ひ……姫華お嬢様!!  
も……もうやめて  
ください……っ

主と執事が  
このような事を  
……

あら?  
これは私の  
新しいリップの  
具合を試してる  
だけですか?

だから立派な  
執事としての  
業務ですわ……

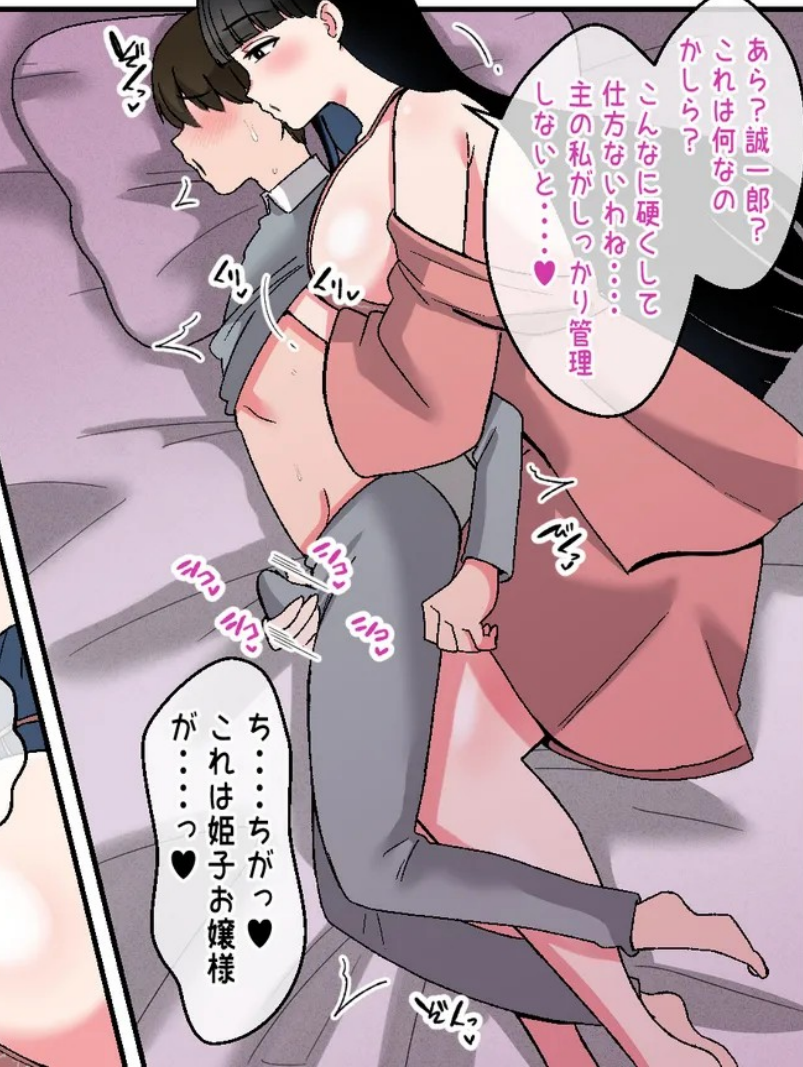
ほら♡  
もっと口づけして  
舌も出して……♡



誠一郎今夜は私と  
一緒に寝なさい

えっ!?  
それはさすが  
に……

命令よ  
寝なさい



あら? 誠一郎?  
これは何なの  
かしら?  
こんなに硬くして  
仕方がないわね……  
主の私がしっかり管理  
しないと……♡

ち……ちがっ♡  
これは姫子お嬢様  
が……っ♡



何? 私の  
せいにするの?  
主のせいにするなんて……  
おしおきが必要ね……♡

あっ♡  
ダメ♡

そして二人同時に  
来る……



ちよつと姫華!!  
ながすぎよ!!  
交代して!!

あっ♡ひ……  
姫子お嬢様♡  
そんな奥まで  
……♡



ちよつと姫子!!  
勝手に射精さそうと  
しないでくださる?!

ちよつと  
ちよつと  
ちよつと



それ以上は  
も……もうっ♡

先っぽが  
弱いんでしょう?  
んっ♡んっ♡んっ♡  
ほら♡私の口の中に  
お射精なさい♡



おっ……  
お二人とも  
……♡

あなたは黙って  
受ければいいの♡  
私の口の中で  
果てなさい……♡



ちよつ♡  
顔にかかると♡



あっ♡  
スゴッ♡

誠一郎の思い出の中の  
愛らしかった二人の  
思い出は……

誠一郎!

誠一郎!

欲望渦巻く二人へと  
塗り替えられていく……

誠一郎♡

♡♡

♡♡

♡♡

♡♡

そんな2人の間で  
揺れ動く誠一郎

ふわあ

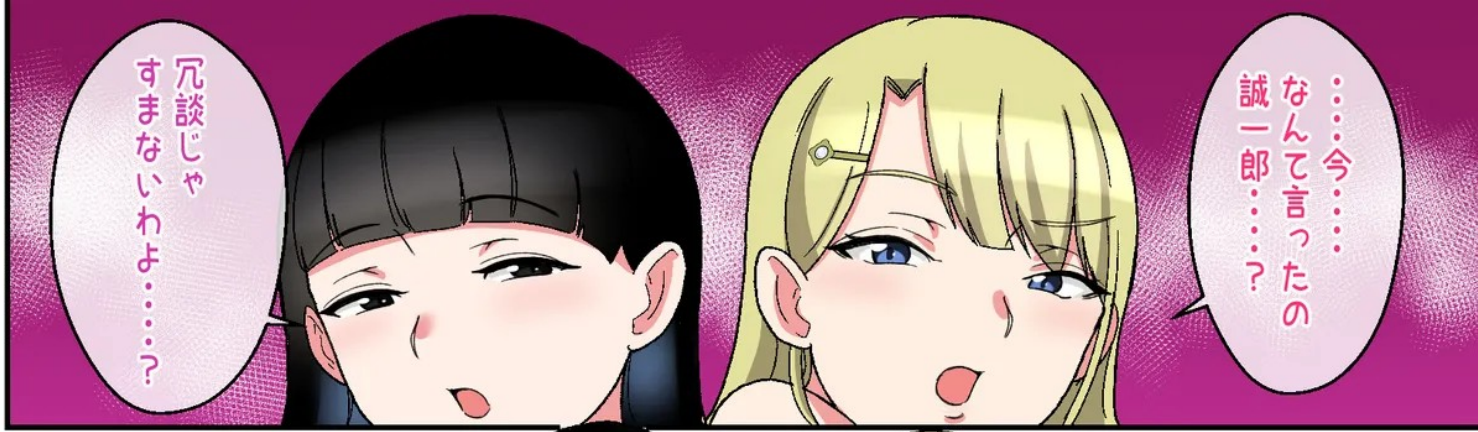
本気の2人を  
止める事は  
できず……

刻一刻と  
決断の時は  
迫っていた

あああ……

そして  
誠一郎は……

ある決断を  
下す……



……今……  
なんて言ったの  
誠一郎……？

冗談じゃ  
すまないわよ……？



いえ!!  
本気です!!

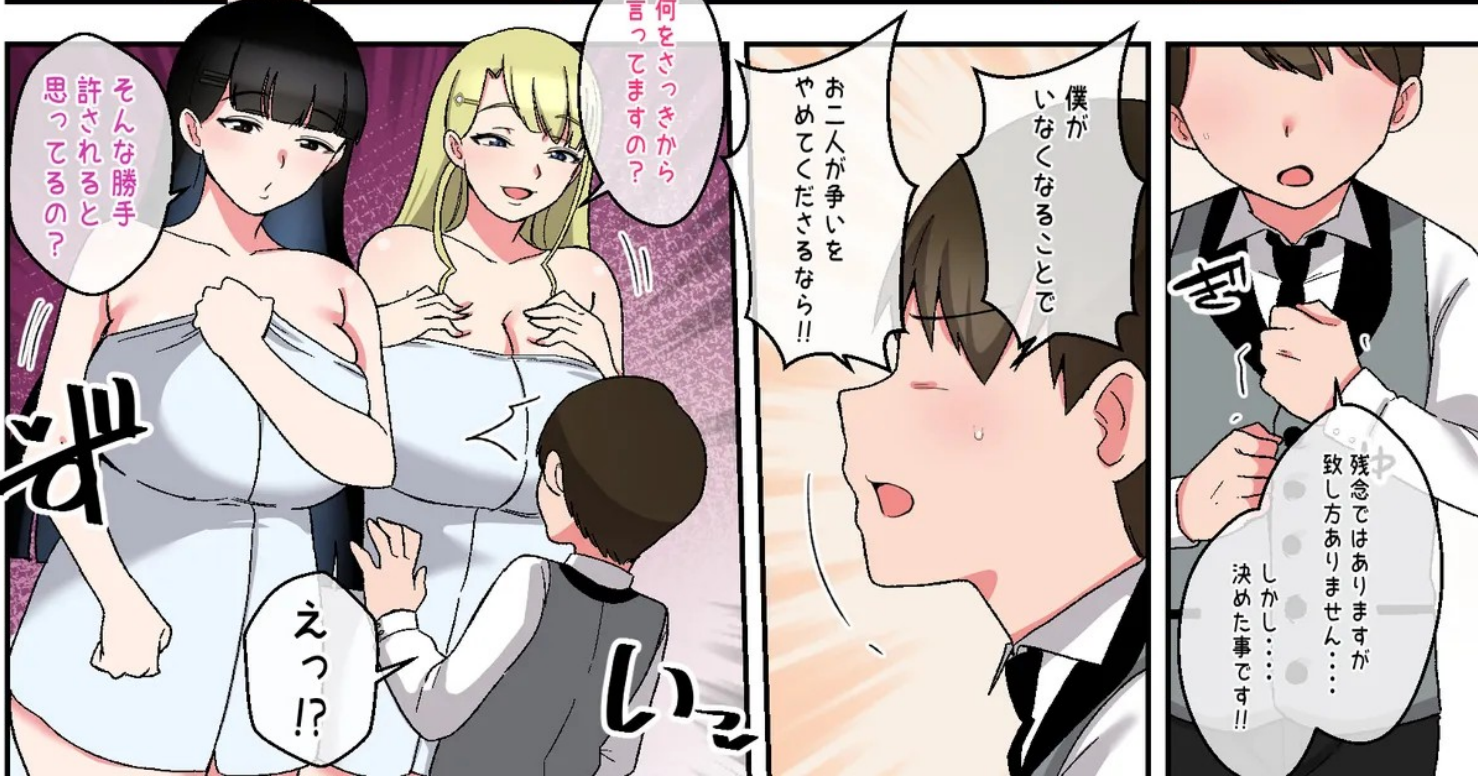
なまいき!!

だから  
執事を辞める  
……

そうすれば  
私たちが争う  
ことはなくなる  
から……

僕はこれ以上  
お二人がご自身の  
体を使って争う姿を  
見たくはありません!!

そういう事  
ね……



何をさっきから  
言ってますの？

僕が  
いなくなることで  
お二人が争いを  
やめてくださるなら!!

残念ではありますが  
致し方ありません……  
しかし……  
決めた事です!!

そんな勝手  
許されると  
思ってるの？

えっ!?

いっ

お



今更あなたが  
どうしようが  
関係ありませんわ

あの……

あ……

言ったはずよ？  
誠一郎……私たちも  
本気だって……



それまで  
逃がさない  
から……

絶対に  
決めてもらい  
ますわよ……？

たん

だん

お二人が諦めの悪い  
姉妹だと知っていた  
ハズなのに……

ああ……

あ……

僕の考えは  
甘かった……



退路を断られた……

さあ  
誠一郎……  
覚悟なさい♡

僕はいいよ……



さあ……選びなさい  
誠一郎……♡

私と姫子……  
どちらの胸が  
良いのかを……♡

あなたのその  
おちんぽで  
……♡

じっくり  
味わって  
決めなさい……♡

おん

おん



そう言いながら  
お嬢様達は  
胸の隙間を作り出し

早くそこに  
挿乳れるよう  
誘惑する……

あっ♡  
反応して  
ますわね♡

もうそんなに  
苦しそくに  
して……

ホラ……  
早くこの  
隙間に……♡

んんん

んんん



あんっ♡  
挿乳って  
きましたわ……♡

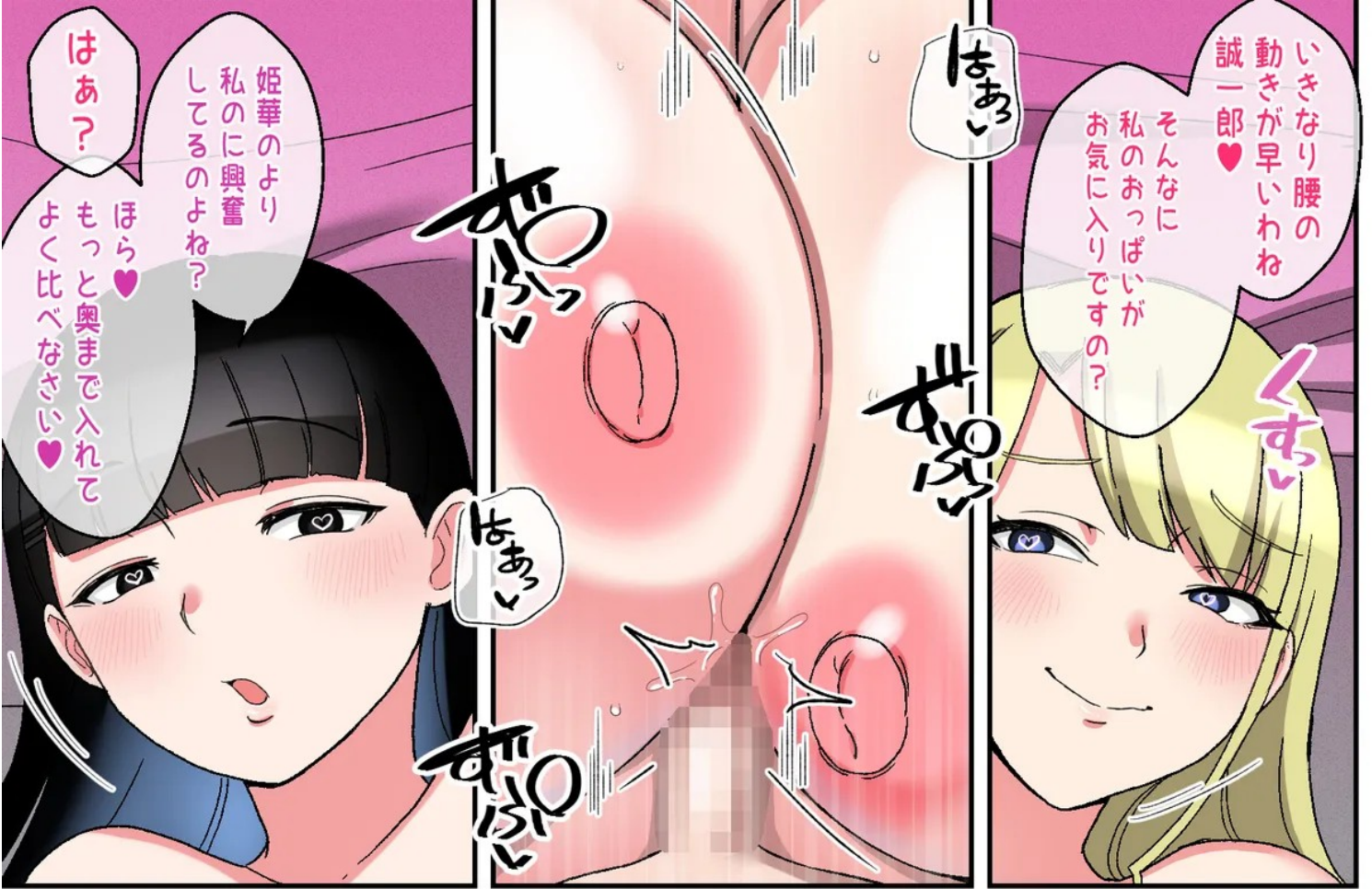
もう♡  
ガチガチじゃないの♡

熱さが胸に  
……おっぱいに  
伝わってくる  
……♡

僕は誘われるまま  
お二人の胸に  
挿乳した

んんん

んんん



はぁ？  
ほら♡  
もっと奥まで入れて  
よく比べなさい♡

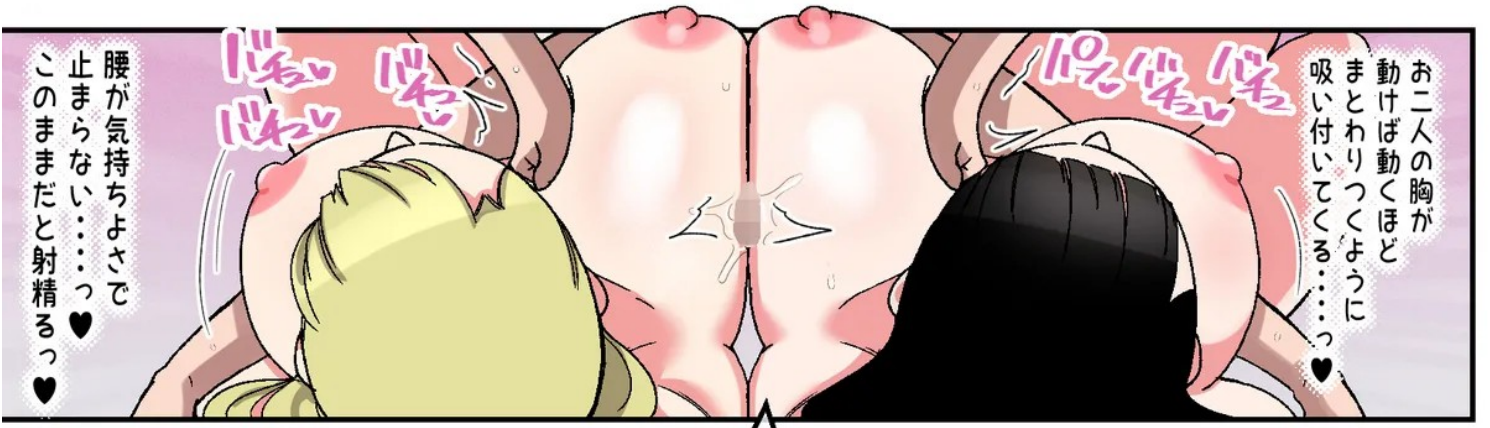
姫華のより  
私のに興奮  
してるのよね？

はぁい

はぁい

いきなり腰の  
動きが早いわね  
誠一郎♡  
そんなに  
私のおっぱいが  
お気に入りですか？

くっ♡



腰が気持ちよさで  
止まらない……っ♡  
このままだと射精するっ♡

お二人の胸が  
動けば動くほど  
まとわりつくように  
吸い付いてくる……っ♡



熱……っ♡  
量も凄いわね

でもやっぱり  
早漏気味じゃない  
かしら……？

射精る

あんっ♡  
すっごい勢い♡

びゅーっ♡  
びゅーっ♡  
射精てますわ♡



たくさん射精  
したけど……

まだこれじゃ  
決められません  
わよね……？  
誠一郎♡

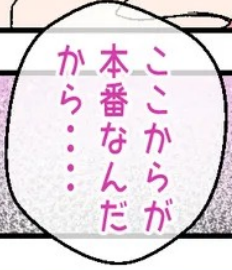
そうね……  
おっぱいだけど  
まだ判断できない  
わよね……

いよいよ……  
アソコで判断  
してもらいましょう  
……♡

どろろ



まだバテる  
んじゃない  
ありませんわ  
よ……♡



ここからが  
本番なんだ  
から……



さあ……  
誠一郎……  
どっちの方が  
体の相性が良いか  
……

じっくり  
確かめなさい♡

す

しゅ

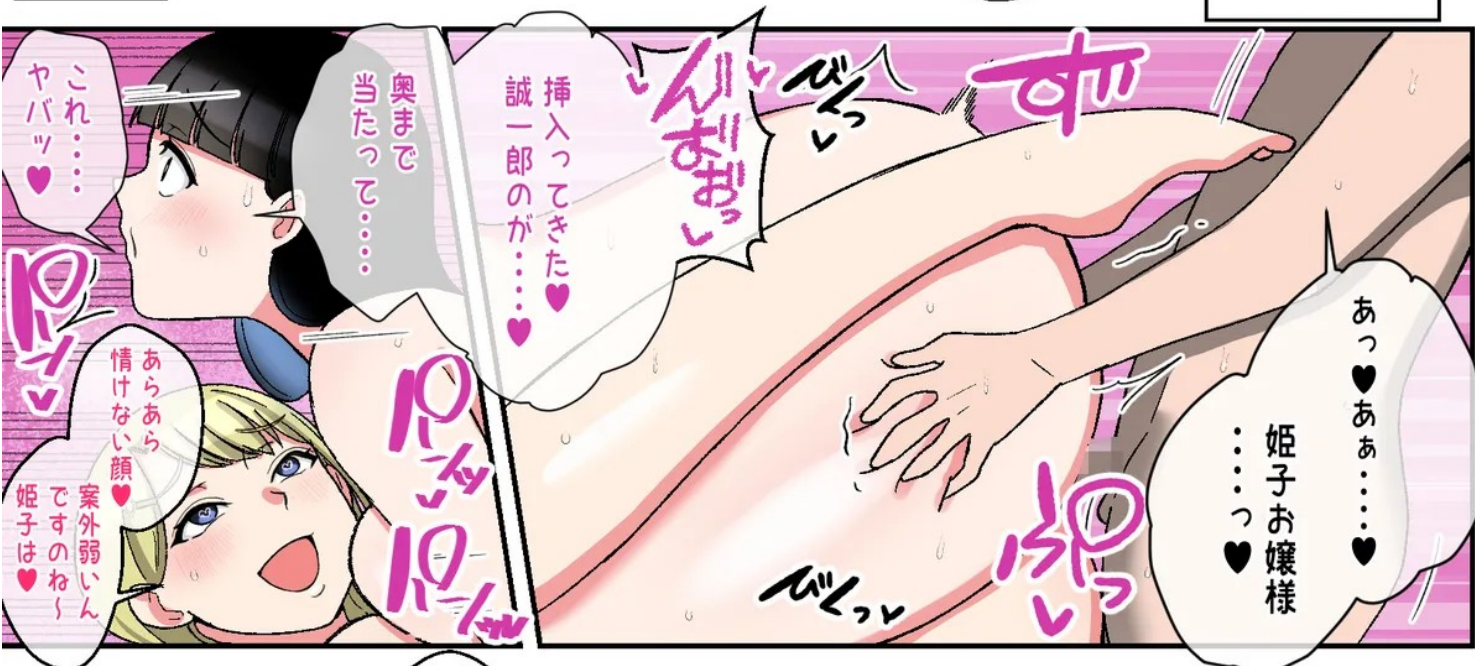
そう言い  
お二人はあられもない  
姿を僕に見せつけて  
きた……

姫華お嬢様……

姫子お嬢様……

もうここままで  
くると後戻りは  
できない

僕も覚悟を  
決めた……



あっ♡ああ……♡  
姫子お嬢様  
……♡

挿入ってきた♡  
誠一郎のが……♡

奥まで  
当たって……

これ……  
ヤバッ♡

あらあら  
情けない顔♡

案外弱いん  
ですのね♡  
姫子は♡



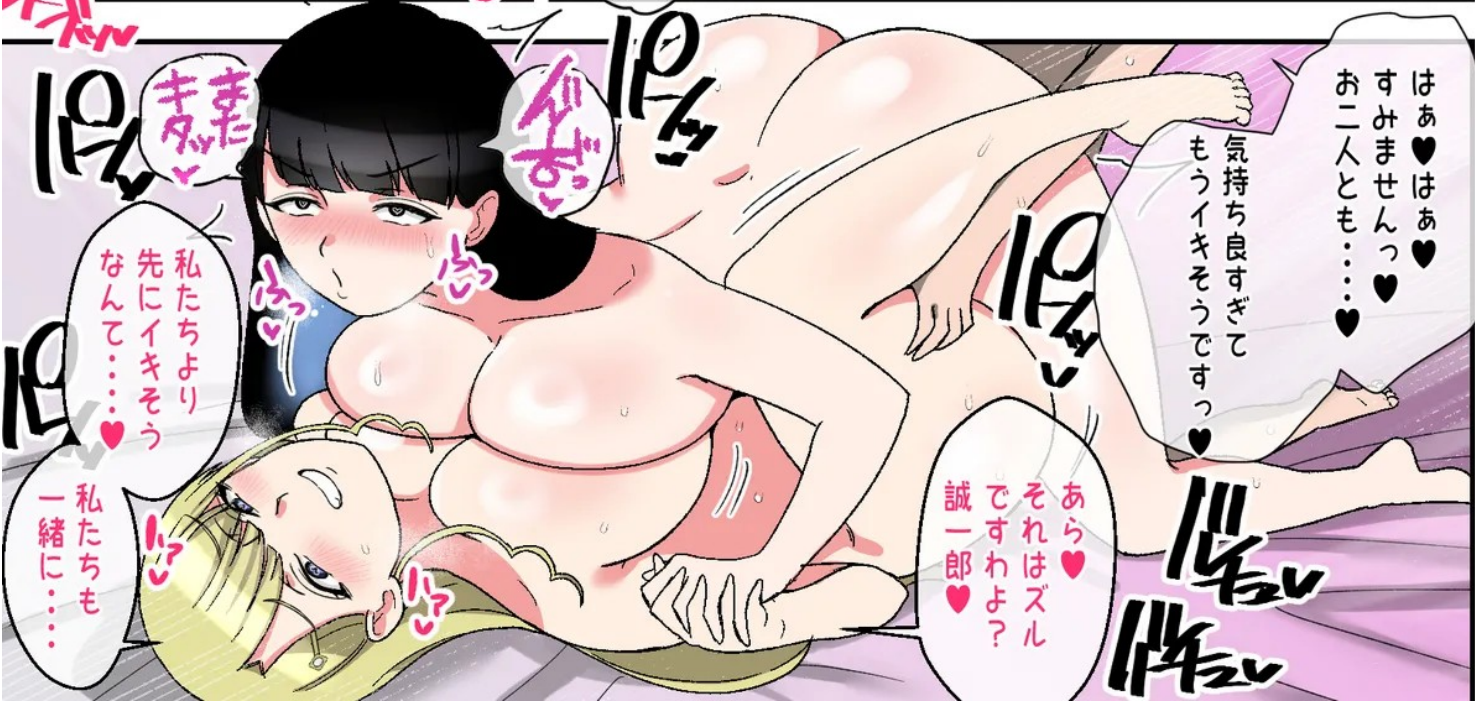
姫華お嬢様  
はあ♡  
失礼します  
……♡

え!?  
ちよ……  
いきなりいっ♡

は……反則  
ですわよ♡  
それ……♡

ふふっ♡  
人の事言えないわよ  
姫華……♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡



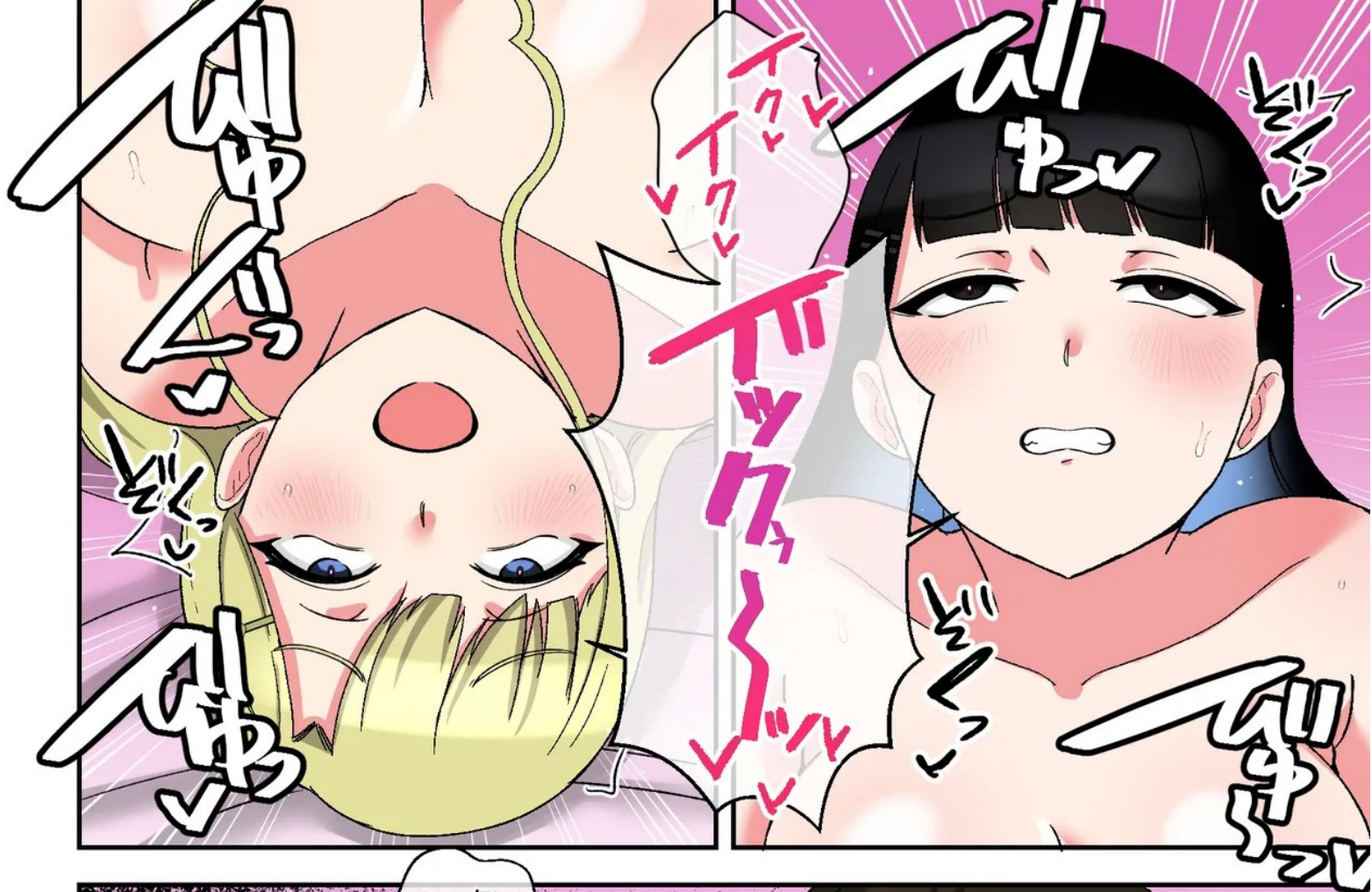
はあ♡はあ♡  
すみません♡  
お二人とも……♡

気持ち良すぎて  
もうイキそうです♡

あら♡  
それはズル  
ですわよ♡  
誠一郎♡

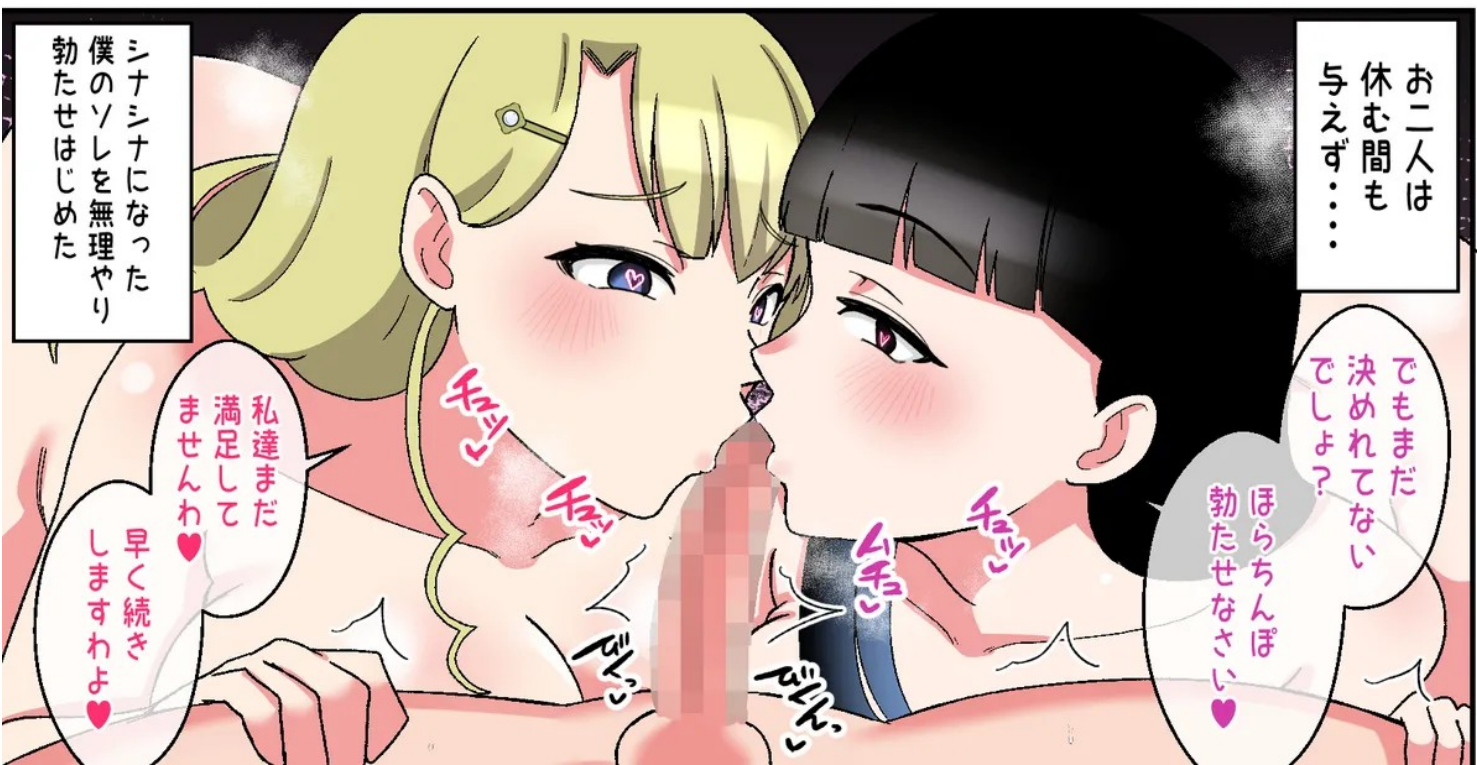
私たちがより  
先にイキそう  
なんて……♡

私たちが  
一緒に……♡













うふ♥  
どうだったかしら？  
誠一郎……♥

もちろん私に  
いっぱい射精して  
くれましたわよね？

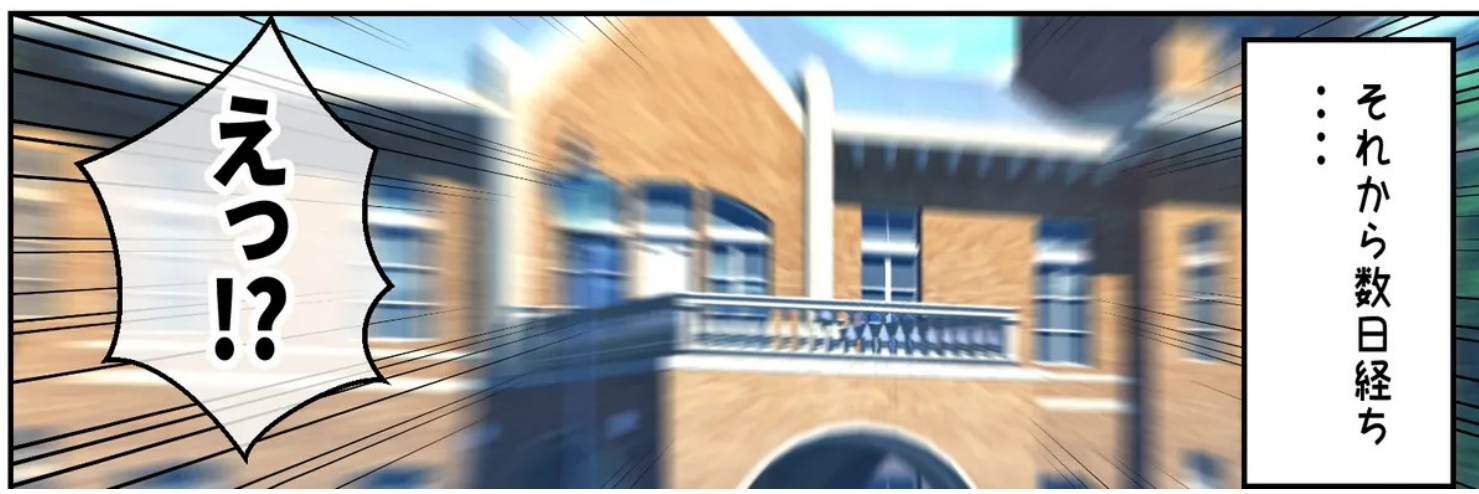
私の方よね？  
誠一郎……  
あれだけ射精  
したんだから……

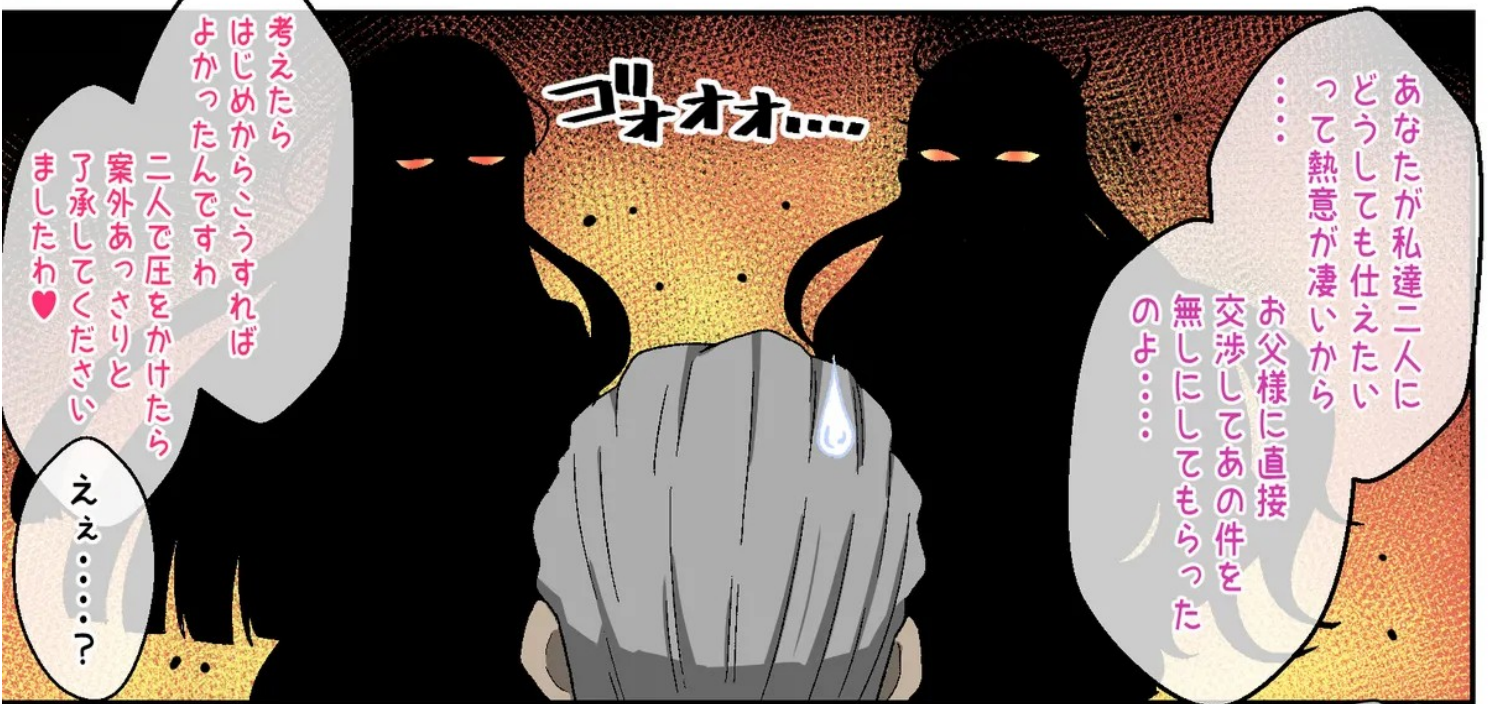
はっきりするまで  
続きするわよ……♥

お二人の搾精が  
終わったのは僕が  
本当に気を失って  
ようやくでした……

それから数日経ち  
……

えっ!?









**この作品はフィクションです。  
実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。**

**作品の無断転載・複製・販売・加工・AI学習を  
禁止します**

**This work is fiction.  
It has no relation to real persons, organizations, or events.**

**Unauthorized reproduction, duplication, sale, alteration,  
and AI training of this work are prohibited**

とある財閥の「でかムチ姉妹令嬢」

その執事……



はあ……  
姫華もしつこい  
わね……

誠二郎は私の  
専属執事になる

あんなに  
往生際が悪い子  
ですわ



その言葉  
そっくりそのまま  
返すわ姫華……

あんなに  
深ら書いて……

どちらの専属執事になるか  
選べと言われ……

だから誠一郎……  
私たちもこれまでの  
「お遊び」みたいな……  
あなたの奪い合いは  
しないわよ……?

お遊び……?

あれが?

そうですね……  
誠一郎……

今度こそ……  
決めてもらいます  
わよ……?

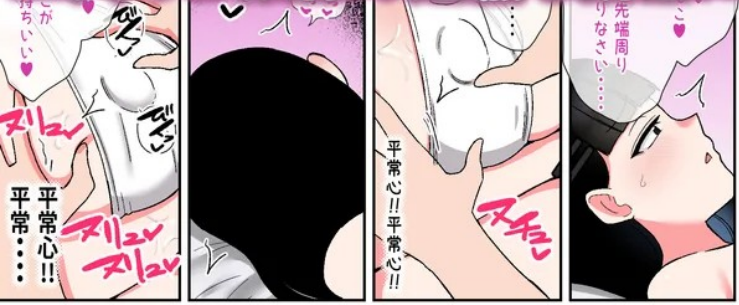
でかムチ令嬢の本気の奪い合いが開始!?



本気  
ですわ  
よ

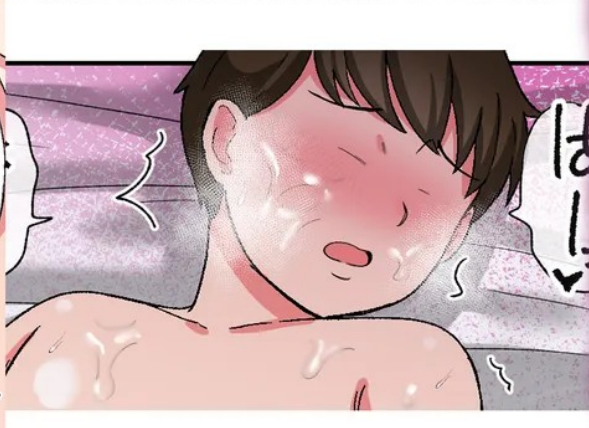
それは同感  
だからこれからの  
あなたの奪い合い  
は……

# 二人のお嬢様の過激な誘惑に……



執事は翻弄されていき……

二人のでかムチボディに圧倒され弄ばれる♡



どちらか一方を選ばない限り...



続く搾精地獄!?

お嬢 たく

最終判断は

セックスの相性で判断?!♡

本気だって...



でかムチボディの姉妹令嬢に

迫られた...

さあ... 誠一郎...  
どっちの方が  
体の相性が良いか

さあ... 誠一郎...  
どっちの方が  
体の相性が良いか

はあ♡はあ♡  
すみませんっ♡  
お二人とも...♡  
気持ち良さすぎて  
もうイキそうですっ♡

あら♡  
それはスル  
ですわよ?  
誠一郎♡

執事の運命は

!?

もうここまで  
くると後戻りは  
出来ません...  
決めた...  
私たちより  
先にイキそう  
なんて...♡  
私たちも  
一緒に...



僕はよいよ...

さあ  
誠一郎...  
覚悟なさい♡



フルカラー  
42p

# でかムチお嬢様姉妹

どちちらかの専属執事になるまで  
毎日追われ、搾り取られるボク♡



天上院姫子  
107(K)/62/98  
一人称:私(わたし)

天上院財閥の令嬢で姫子の双子の妹  
姉と違い黒髪の子供カットが特徴。  
姉に比べると物静かな性格だが、その実計狡猾な一面もあり  
姫華に劣らず負けず嫌い。有無を言わせぬ圧を發する。  
姫華と同じく幼い頃から誠一郎に想いを寄せており、  
姫華には誠一郎を渡したくないと思っている。

天上院姫華  
108(K)/62/98  
一人称:私(わたくし)

天上院財閥の令嬢で姫子の双子の姉  
西洋人の母親の血を色濃く受け継いでいる容姿が特徴。  
お嬢様口調で話す。  
高飛車で目立ちたがり屋で意地っ張り。欲しいものは  
何としてでも手に入れる性格。  
幼い頃から誠一郎に想いを寄せており、何としてでも  
自分の専属執事にしようとしている



誠一郎  
一人称:僕

天上院姉妹に子供の頃から仕えている執事。  
二人と年齢は近く一応年上。  
子供の頃から仕えているため三人に対しては兄妹のような  
感情も抱いている。  
子供の頃は三人より身長が高かったにもかかわらず  
大人になつて大幅に成長した三人に対してまったく体格が変わってない。  
しかし、我儘な三人の相手を昔からしてきたおかげか体力はかなりある方。